

29 NOV 2004



第24号

日米エアフォース友好協会

だより

Japan America AF Goodwill Association

発行：日米エアフォース友好協会

〒105-0004 港区新橋 5-25-1-3

編集：JAAGA事務局

印刷：財団法人 防衛弘済会

ホームページ：http://www.bouei.com/groups/jaaga/

## 航空自衛隊創立50周年記念講演会・懇親会

— 回顧と展望・会場満杯新たな50年ともに祝う —



Commemorative lecture

航空自衛隊創立50周年を記念して、津曲航空幕僚長以下現役自衛官約100名並びに歴代空幕長をはじめ空自OB約200名の参加のもと、6月28日グランドヒル市谷において記念講演会が開催され、引き続き行われた懇親会はワスコ第5空軍司令官以下の米軍関係者を含め100名を超える内外多数の参会者により、華やいだ雰囲気の中50周年の節目にふさわしい極めて盛大な記念行事となった。

講演会は、元統合幕僚会議議長・航空幕僚長の竹田五郎氏による「航空自衛隊創設期の回顧」の第1テーマ、そして元国連代表部大使の佐藤行雄氏による「活動が国際化する自衛隊に求められるもの」の第2テーマがそれぞれ行われ、予定時間を30分もオーバーしての熱弁に参会者の大きな拍手が沸いた。

先ず第1テーマにおいて竹田氏は、防衛力整備計

画の歴史的経緯や部隊建設計画の実績そして米空軍からの防空任務の移管状況等の幾つかの観点から、空自創設期を昭和29年から35年位までとした前提のもと、創設期ならではの困難な事情を背景に自らの体験を座標軸としつつ、具体的な回想録でF86F時代のノスタルジアに参会者を誘った。そして装備や組織が満足に整えられていない環境で墜落事故が相次いだ厳しい状況の中でも、パイロットを中心として飛行訓練に邁進した諸先輩によって、「勇猛邁進」の明るい気風が空自全体に広がり根付いていった多くの事実が紹介され、当時を知らない参会者にもかかわらず現役自衛官の感動の輪が会場に広がった。また自衛隊に対する厳しい世論の中でも「日の丸ジェット戦闘機」への国民的愛着があり、当時、浜松から羽田までのフライトタイムを問う楽しいキャンペーンが催されたことや、いまを時めく「ブルーインパルス」が上級司令部の命令によって編成されたもの



Gen. Takeda (Ret.)

ではなく、熟練パイロットの自主的な活動がもとで立ち上げられたことなどの“秘話?”にも言及があった。最後に竹田氏は、空自が50周年を迎えた今、組織や体制が堅固になった分それだけ逆に隊員の夢が膨らみ難くなっているのではないかという先輩としてのアドバイスに触れると共に、「これまでの50年以上に組織としても個人としても、目標をもって積極果敢に前進してもらいたい。」との結言を以って講演を締め括った。

次いで第2テーマにおいて佐藤氏は、よく知られているように所謂「同い年」ということで同氏が永年大切にされてこられた防大5期生との個人的交流や、ミグ25 函館事案当時の外務省アメリカ局安全保障課長をはじめとして、防衛庁との長期にわたる職務上の関わり合い等を背景に、国連と防衛庁との脈絡などに関し幅広い見方から論点を展開したところ、概要以下のとおり。

先ず国連代表部への防衛駐在官派遣や国連本部PKO局への自衛官派遣等について、佐藤氏自らが制度改正のインシアティブをとり、また防衛庁長官や陸海空幕僚長等による国連要人訪問を実現してきた経緯を具体的に紹介し、参会者に「目からウロコ」的感動を与えた。

多国籍軍関連問題に関しては、佐藤氏の外交官現役勤務の頃、「日本は国内態勢のために、国際社会を変えてこれを日本向けに合わせようとするのか?」というような厳しい質問に幾度か遭遇した事例を引用しつつ、「仮に近い将来自衛隊がイラクから撤退するようなことになれば、自衛隊の国際的評価は直ちに崩壊することになる。」との持論を強調した。

更に、わが国は現在北朝鮮とイラクという二つの脅威に直面しているが、これらの対応において、既に冷戦終結の状態にある米国や欧州諸国とは種々の面において事情が異なることは再認識されなければならないとした上で、集团的自衛権や憲法の解釈/改正の可能性を指摘した。

そしてPKOを含む国連の平和活動を考える時、これらの活動あるいは国連そのものが依然

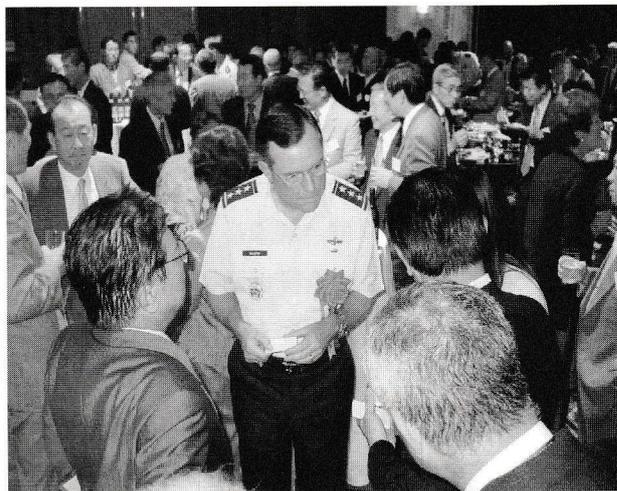
として進化の過程にあり、そうした中で日本の役割を考えていくことが必要であること、また自衛隊の任務も多様化しているが、日米防衛協力がわが国の対米発言力を強めていることにも言及した。

終わりに、国連60周年の2005年そして日本の国連加盟50周年の2006年は、わが国が非常任理事国として安全保障理事会に9回目の席に着くことになるが、自衛隊の国際的役割も益々大きなものになるとの見通しと期待を表明して講演を締め括った。

講演会は300名を超える参会者で、その為ひとつの講演会場のみでは収容しきれず、他に3つの別室にTVモニターを設置して対応した程の大盛況であったが、更に多数の参会者を飲み込む形となった懇親会は大会場に場所を移して開催された。

冒頭、津曲航空幕僚長から記念講演の内容を引用しつつ、空自を象徴する新しい標語として「勇猛邁進・クリエイティブ」が紹介され、また鈴木新生つばさ会会長からは「空自OBの活動を氷山の海面下に例えた」力強い挨拶があり、次いでワスコ司令官からイラクをはじめとする空自派遣部隊の海外活動に対する賛辞などが述べられ、それぞれに会場満杯数百名の大拍手が贈られた。村木JAAGA会長の乾杯音頭によって開始された宴は、一般招待客や米軍招待客そして現役自衛官、空自OB等による懇談の輪の広がりの中、賑々しく華やかに繰り広げられた。

(高橋健二常務理事記)



Reception of JASDF 50th anniversary

## 空自50周年へ、デービス大将から書簡

航空自衛隊 50 周年に際し、J A A G A 名誉会員であり、1988 年 1 月から 1991 年 6 月の 3 年 6 ヶ月間在日米軍司令官兼ねて第 5 空軍司令官として日本の安全保障に多大の貢献をされ、1993 年に欧州連合軍最高司令部参謀長で退役されたジェームス B. デービス大将から、J A A G A 会員あてに次のようなお祝いの書簡が届きました。

J A A G A 会員の皆様へ

航空自衛隊の 50 周年記念行事への参加を心より希望していましたが、海外出張のため、この時期に日本に行くことが出来なくなりました。本当に残念です。素晴らしい航空機を装備し、優秀な人達で組織された第 1 級の空軍を創設されたことに対し心から御祝い申し上げます。世界中の空軍関係者はあなた方の実績を理解し、また、空軍関係者のみがおその実績を評価することが出来ます。米空軍での 35 年間のうち、第 5 空軍を指揮していた時ほど素晴らし

いポジションに配置されたことはありません。妻キャロルと私は航空自衛隊の皆さんのお陰で、あなた方のプロフェッショナリズム、文化そして素晴らしいお心遣いを知りました。「大空のサムライ」と経験を共有できるということは、私の経歴上他に類を見ないものでした。我々は共に業務を実施し、日米空軍関係における歴史を作ってきました。訓練は傑出したもので、日々の両軍の関係は対比する物がない程に素晴らしいものでした。米空軍は日米関係の重要性を強く認識し、私の離任後、米空軍の最も優秀な人材を後任として配置してきました。また、私の前任者達にも偉大な指揮官がいました。私は毎日のように航空自衛隊と航空自衛隊の人達のことを思い出し、そして聞かれる全ての人達に我々の関係について話をしています。航空自衛隊創立 50 周年、おめでとう御座います。キャロルと共に皆様のご多幸、ご繁栄を祈念致します。

敬具

退役大将 J. B. デービス

## 5 空軍司令官ワスコー中將を送る夕べ

—— 多大な貢献に感謝・7 人目の名誉会員に ——

去る 9 月 29 日夕、日米エア・フォース友好協会是在日米軍司令官（兼第 5 空軍司令官）ワスコー空軍中將の送別会を、理事等約 40 名が参加してグラントヒル市ヶ谷で開催した。既に本協会 7 人目となる名誉会員の指名を受諾されているワスコー中將に対し、冒頭、村木鴻二会長から名誉会員証を手交すると共に、我が国安全保障に関する同中將の大きな貢献と当協会活動への深い理解・協力を称えた会長スピーチが行われ、送別の宴が始まった。

・・・「本日はワスコー中將の日本での 3 年間にわたる献身的な活躍に対し心からの感謝の意を表し

たいという有志の集いであります。周知のとおり、わが国は「9. 11」以降国際的なテロ抑止活動に参加していくとの国家意志を明示し、航空自衛隊はイラク復興支援のため C-130 機を派遣しました。こうした中、ワスコー中將がなされたわが国に対する協力と支援は計り知れないものであり、アラスカにおける日米共同訓練コープサンダー等も大きな成果を挙げましたが、こうした例は枚挙にいとまがないものであります。日米関係と航空自衛隊のために多大の尽力を戴いたワスコー中將が退官されることは寂しい限りであります、ご夫妻共々の益々の御健

勝を祈念します。」・・・

ワスコー中將からは名誉会員指名に係わる謝辞に続き、日本での勤務を終るに当り、3年間の思い出と、航空自衛隊とJ A A G A等の今後の発展を祈念して離任の挨拶が行われた。

・・・「日本で過ごした3年の歳月を振り返りますと、この間世界情勢は従前とは全く異なった極めて興味深い動きを示してきましたが、こうした中で日本を離れる日を間近に控えて、多大な努力と犠牲の上に今日の航空自衛隊を築き上げてきた会員の皆様と一緒にひとときを過ごせることを光栄に思います。イラク・中東地域への航空自衛隊空輸部隊の派遣やコープサンダー等の日米共同訓練に大きな成果が得られたことに敬意を表しますと共に、これは村木会長が言及されたような米空軍の支援というふうなものではなく航空自衛隊の心意気と高いプライドによるものであるということを確認しておきたいと思えます。こうした航空自衛隊の土台を築き上げてきたJ A A G A会員その他多くの航空自衛隊OBの方々に改めて衷心から敬意を表する次第です。私は1970年に空軍に入隊し、その折米軍は戦時がありました。今も米軍は戦っています。この34年間という長い空軍生活の最後の3年間を日本で勤務したということには感慨深いものを感じます。日本を離れるのは悲しいことですが、これも世代交代ということであり

ます。今日、日米関係は良好な状態にあり航空自衛隊も益々の発展を遂げつつありますが、ここに参集戴いた皆様が航空自衛隊のために尽くされた業績に再度の敬意を表して、お別れの挨拶とします。有難うございました。」・・・

続いて鈴木昭雄顧問が、充実感をもって職を去ることが最高に幸せなことであるとの東洋的思考を紹介して力強い乾杯が行われ、送別の宴は、ワスコー夫妻を中心とした歓談の輪の広がりの中、時間の過ぎるのが忘れられる程の盛会となった。途中、ワスコー中將と旧知の大橋元監事から思い出話の披露と個人的な記念品の贈呈があり、最後は後藤副会長のユーモア溢れる納杯により、名残を惜しみつつの送別宴は幕を閉じた。（吉田松徳常務理事記）



Honorary member Award

## 在日米軍広報部長ウォーzensキー大佐、帝京大で講演

### 初めての大学訪問

平成14年7月6日（火）午後1時から4時までの間、在日米軍広報部長ウォーzensキー大佐による帝京大学生への講演が実施された。これは同大佐が2002年8月に着任以来の念願であり今回実現の運びとなったものである。横田基地はこれまで上智大、帝京大、政策学院大学等の学生に対し

在日米軍司令官講話も含め実施してきたが是非次回は米側から大学に出かけて学生に対し講話をしたいとの申し出がJ A A G Aに対してあった。これを受けて大学側と調整した結果、自衛官の先輩でもあり帝京大学の教授でもある志方氏の取り計らいで2年越しの検討の結果実現したものである。

米国ではROTC（予備役将校訓練部隊）と呼ばれる制度があり、大学と軍との関係は極めて密接である。全米のほとんどの州立大学と一部の私立大学に併設されており、その名前から予備役の将校を専門に養成している印象をうけるが、実際には正規軍将校の大半がROTC出身者である。日本では戦後「糞に懲りて膾を吹く」の喩えのとおり一時期一部の国立大学への自衛官入学拒否という事態まであったことは記憶にまだ新しい所である。日本勤務はじめてのウォージンスキー大佐に異常ともいえる日本の状況を理解して貰うには時間が必要で依頼を受けてから徒に時間のみたち、一時は見送らざるを得ないとも考えた時期もあったほどである。窮すれば通ずの喩えどおりで、ある会合で志方教授にお会いしたおり相談したところふたつ返事でご承諾賜り実現の運びとなった次第である。

講演は25ページに及ぶ大変周到に準備された原稿をもとに通訳を含め1時間程度の講演ののち学生からの質問に答える形式で行われた。講演は日米同盟の重要性について色々な角度から話が展開し学生にとって大変わかりやすく終始熱心に聴講していた。講話終了後、学生から多くの質問があり、ひとつひとつに大変丁寧にまたユーモアを交えながら回答していたのが印象的であった。大佐は日本勤務の前は広報担当国防次官補のスタッフとして国防総省のスポークスマンをサポートし、国防長官が外遊する際は全ての広報活動の調整を行なう等の経験があり、その経験からか学生からの質問への応答は実にテキパキとしていた。講演終了にあたり同大佐から学生に対し横田基地への招待の話があり「次回は基地で

お会いしましょう」との締めくくりの言葉で3時間に及ぶこの日の講演を終了した。

最後に昨年横田基地研修にも参加し今回講演に参加した帝京大学生4年生の佐藤大作氏は次の感想を述べた。

「現役の在日米軍関係者の方に直接お話をお聞きする事ができてとても貴重な経験ができました。

他の大学やゼミでは決して聞くことのできなお話を聞いたのも、志方ゼミに所属しているおかげではないかと感謝しています。現在の日米関係や今後の日米関係の話など深く突っ込んだ内容も説明して頂きなるほどそんな裏側があったのかと感心するばかりでした。

また学生からたくさんの質問がでて答えにくい質問もあったと思うのですが、ひとつひとつ丁寧に答えてくださいました。前回は横田基地の見学をさせて頂き今回は直接大学に講演に来て下さり正直米軍に対するイメージが大きく変わりました。このような機会を設けていただきありがとうございます。」

(越智常務理事記)



Q & A after lecture

## 講演等の要望を募ります

### 「安全保障に関する日米関係」等

防衛協力のための指針や物品役務相互提供などに関する論議がしばしば行われる昨今、事務局では日米関係の現状や展望に関するより良い理解の

ため、主として基地周辺の皆様を対象とする講演、懇談会等を企画できるよう準備しています。ご要望あれば御一報下さい。 J A A G A事務局

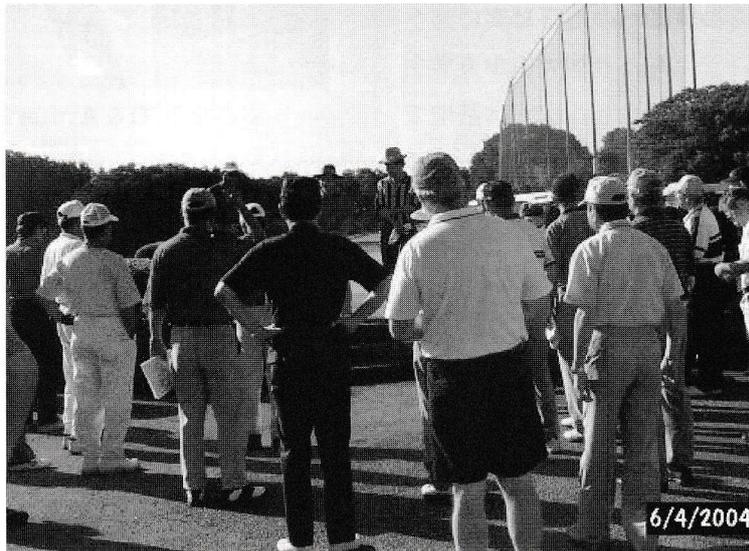
# 日米交歓 SPORTEX'04A Golf Tournament

J A A G A 恒例のSPORTEXが今年度は春・秋の2回開催されることになり、その第1回目のSPORTEX' 04Aが6月4日(金)、米軍多摩ヒルズ・ゴルフ・コースにおいてJ A A G Aから村木会長以下正会員及び賛助会員の計48名、また米側からベーカー5空軍副司令官以下の計20名、日米合わせて68名の参加のもと開催された。

早朝5時半ころから練習開始、トーナメント・ブラックファーストでスタミナ充填後、クラブハウス前での開会式の後、各パーティは指定されたスタート・ホールに移動、午前7時に全ホールに聞こえるホーンが鳴り響き、所謂ショット・ガン方式で大会の幕は切って落とされた。快晴無風、フェアウエーはフェアウエーらしく、グリーンも速め硬めに仕上げられた最高のコース・コンディションに恵まれて、好プレー珍プレーが続出した。これ全て各人の平素の精進と腕の成せるところのようで、運動不足を嘆いたり、はたまた出来過ぎのプレーに拍手を強要したり等々の和気あいあいの中、参加者それぞれが貴重な機会の一日を楽しんだ。こうした中、各組のJ A A G A正会員は米軍関係者に流暢な英語、片言

の英語、身振り手振り一杯の英語などそれぞれの英会話能力を駆使して精一杯のコミュニケーションに努め、また法人・個人の賛助会員に対しては親しく接する絶好の機会と、これまた精一杯のホスト役に徹していた。

プレー終了後、トーナメント・ランチを取りながらの反省会では、すっかりと打ち解けあい友好親睦の実を挙げていた。この間、バーデー、パー、ボギーの数で算定するマトリックス方式で成績が集計され12時過ぎに表彰式となり、順位賞は1位から5位、その後は5の倍数の飛び賞があり、村木会長から賞品が手渡されるたびに大きな拍手と歓声が湧き上がった。最後に司会から、今回の開催にあたり大きな貢献をして戴いた米側担当者のベントン少佐やガイ大尉、それにドリンク・サービス・カーで飲み物を配りながら愛嬌を振り撒いたウッドワード軍曹、トーナメント・ディレクターのイイダ氏、レストランのミルヒックス氏の紹介が行われ、全員からの大きな拍手で感謝の意が表された。ボランティアに徹したJ A A G A役員の努力もありSPORTEX04Aは大成功裏に終了した。(榎常務理事記)



SPORTEX04A tournament

## 日米協同訓練参加部隊を激励

J A A G Aが活動の一環として支援している、日米共同訓練（コープノース）と日米共同救難訓練（コープエンジェル）が、平成16年度第1回目として6月7日から空自那覇基地と米軍嘉手納基地で実施された。

6月8日午後、石津J A A G A那覇支部長と本年度から日米共同訓練支援担当となった岩崎常務理事は、先ず、南西航空混成団司令表敬後、団司令室において、コープノースの日本側訓練統制官阿部1佐（南混団防衛部長）と米側訓練統制官代理アンセルモ中佐（5空軍司令部運用幕僚）に対し支援金を贈呈し、懇談・激励した。次いで、コープエンジェルの日本側指揮所となっている那覇救難隊に移り、日本側訓練統制官国武2佐（那覇救難隊長）に対し、同様に支援金を贈呈すると共に、米側訓練参加者への激励を託した。今回の日米共同訓練は、初めてコープノース、コープエンジェルが同一時期、同一基地で実施され、救難活動と戦闘機の活動を組み合わせた訓練も実施される計画になっているが、初日は好天に恵まれたものの、2日目以降、梅雨前線に加えて台風の通過があり、訓練に大きな影響が出ている。贈呈された支援金は、コープエンジェル、コープノースの訓練検討会後の懇親会に役立てられる。

（岩崎常務理事記）

### コープ・ノース概要

期間：平成16年6月6日～6月18日

実施部隊

航空自衛隊：南混団司令部、83空隊 南警隊、  
7空団、警空隊

米空軍：第5空軍司令部、18航空団、35  
戦闘航空団

使用基地：空自；那覇、浜松、米空軍；  
嘉手納

参加規模：空自；F-4x10, F-15x6, E-  
767x1  
米空軍；F-15x10, F-16x16, E-  
3Bx1, KC-135x2

### コープ・エンゼル概要

期間：平成16年6月7日～6月9日

実施部隊

航空自衛隊：那覇救難隊

米空軍：第31, 第33救難飛行隊

使用基地：空自；那覇 米空軍；嘉手納

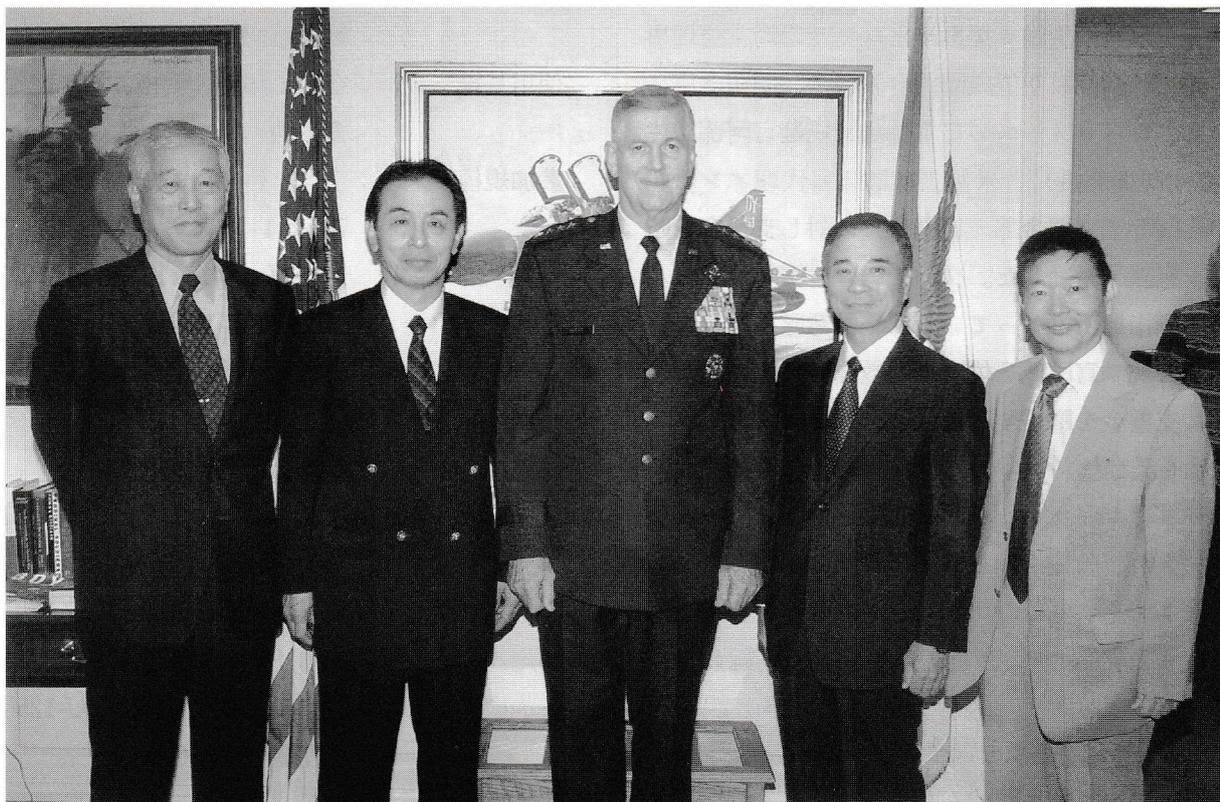
参加機種：空自；V-107, UH-60, U-125  
米空軍；HH-60



Support for Exercise

## 新生つばさ会/JAAGA訪米団に参加して USTRANSCOM&AMCを訪問！ 心温まる大歓迎に感謝！

常務理事 越智通隆



Gen. Myers's office

本年度13回となる訪米団は、JAAGA村木会長を団長に、山口副理事長、相田氏、そして私の4名という少人数の編成で、9月9日から24日までの16日間の日程で米国各地を訪問しました。

最初、米空軍協会（AFA）の総会に先立ち、ピーターソン空軍基地に米北方軍（NORTHCOM）と北米航空宇宙防衛司令部（NORAD）を訪問しました。JAAGAの名誉会員でもあるエバハート司令官の心温まる大歓迎を受け、充実した3泊4日の滞在でした。その後、ワシントンに入り、AFA招待行事に参加、同協会との交流及び同時開催の航空宇宙

技術展示会の研修をしました。国防省ではマイヤーズ統参議長をはじめ空軍省の高官と意見交換をする機会を得ました。特に忙しいマイヤーズ議長は忙しいなか自らスケジュールを調整され、我々の表敬を快く受け入れられたとのことでしたが、議長と率直な意見交換が出来たことは本訪問の意義を極めて高いものにしたいと思います。渡邊防衛駐在官の言葉によれば若い米軍人の中で日本勤務希望者が増えているとのこと、これも近年マイヤーズ議長やエバハート司令官等日本勤務経験者が米軍の中枢を占めていることに由来することでしょうが、真に心強いこと



Gen. & Mrs. Eberhart

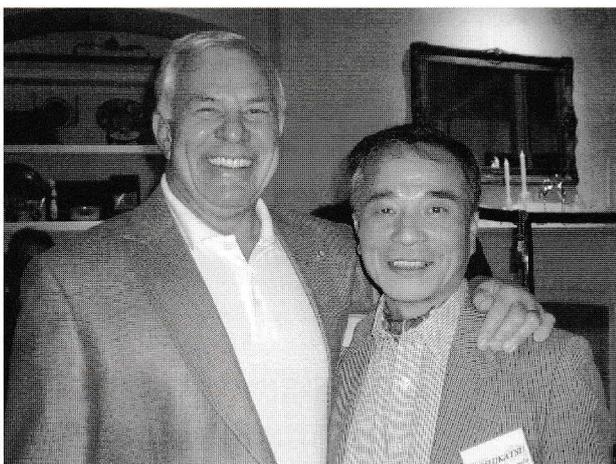
垣間見る思いがしました。また、時間外には本年リーグ優勝した地元カージナルスのナイター試合の観戦ツアーを計画してくれる等思いがけない心温まる歓迎もありました。お蔭で、田口壮選手との面会、激励のオマケまでつきました。当基地は輸送関係の司令部が存在する基地だけに横田基地勤務経験者も多く、日本ファンで一杯でした。受け入れを直接担当してくれたAMCの作戦部長のボルチェフ少将も私が入間基地司令当時

です。また、加藤大使からは、日本勤務経験のある米軍人の輪を作るため、大使主催のバーベキューパーティ等各種の施策を考えておられることをお伺いしましたが、大変嬉しいことでした。

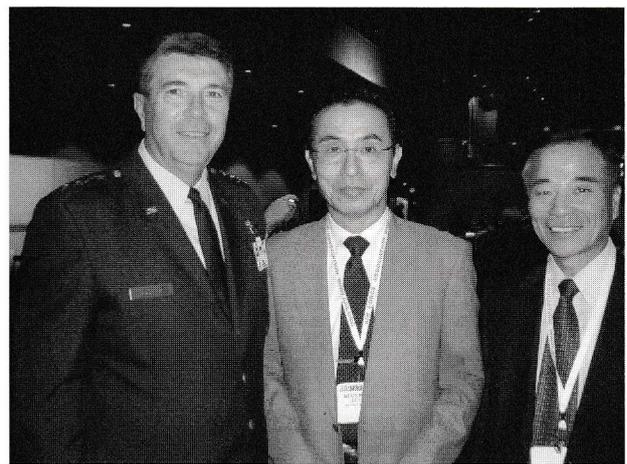
その後この訪問団では初めてですがイリノイ州スコット空軍基地にある米輸送軍 (USTRANSCOM) と米空軍航空機動軍団 (AMC) の司令部を訪問しました。我々の訪問に合わせ、サウス・カロライナ州チャールストン基地からわざわざC-17型機を呼び寄せ展示説明をしてくれる等、大変な力の入れようでした。世界規模で運用されている戦略、戦術輸送や空中給油システム等、米軍の力の根源の一端を

の横田基地司令で旧交を温めることが出来ました。

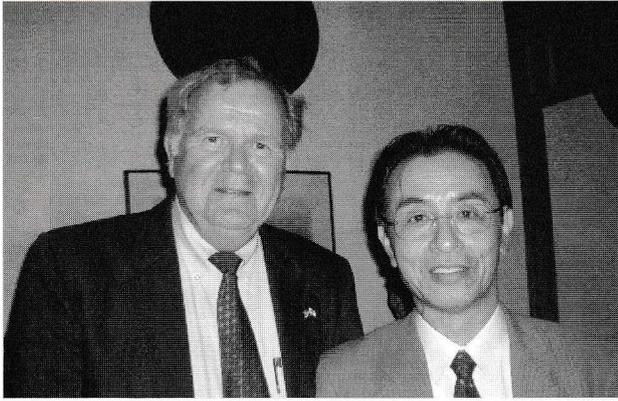
スコット基地の次はネバダ州ネリス基地を訪問しました。当基地で部隊運用に入った最新鋭機のF-22型機を見学することが出来ました。この戦闘機がこれまでの戦闘機の延長線上にあるのではなく、まさに革命的に進歩したものであるとの自信に溢れたパイロットの説明に、有人飛行機はどこまで進歩するものかと感心させられました。イラクでの戦闘に投入されている無人機プレデターも見ることができました。当地の司令官は、三沢基地司令の経験を持つウッド少将で、我々の為に自らブリーフィングを買って出るほどの歓迎でした。丁度当基地のエア・フォー



Gen. Lorber (Ret.)



Gen. Hester



Gen.Hall (Ret.)

ス・ボールが開催され、我々も主賓として参加をし空軍基地と地元との交流の一端を垣間見ることができました。席上主催者のウッド司令官が中將に昇任、空軍省計画局長への栄転が紹介され大変な盛り上がりようでした。また、当地在住の元在日米軍司令官の秘書であったマギーさんには昨年引き続き大変お世話になりました。

ネリス基地に引き続き訪問したのは宇宙ミサイル・システム・センター (Space Missile System Center) のあるロスアンゼルス基地でした。司令官は、2年前と同じアーノルド中將で、大変懇切丁寧なブリーフィングが実施されました。前回にも感じたことでしたが、今回も米国の力の源泉は宇宙にありとの強い印象持ちました。わが国も、宇宙の利用に関し、真剣に考える時期に来ていることを痛感しました。

最後の訪問地はハワイ、ヘスター太平洋空軍司令官は日本で開催された世界空軍参謀長会議出席のため不在でしたが、既にワシントンでのAFAで会うことができました。当地では、副司令官のルノアート中將が歓迎してくれましたが、ダイヤモンドヘッ

ドを背景に百万ドルの夜景を見ながら3時間にも亘る夕食会を兼ねての意見交換は大変有意義でした。

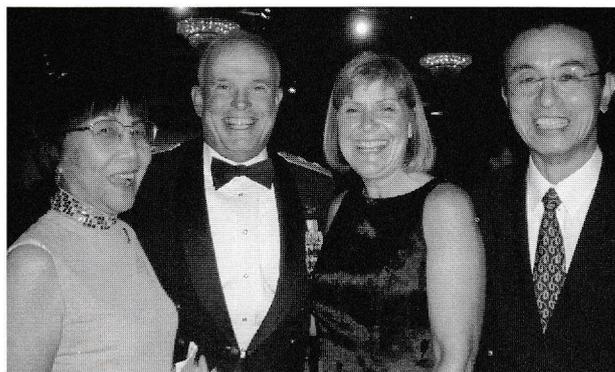
2年前訪問した時は、米本土が歴史上初めて攻撃されて間もない時期であり、米国社会全体が落ち着きのない状況でしたが、今回は国民一人一人が自信を取り戻し、かつての落ち着きを取り戻しつつあると感じました。

2年前、この訪問団に参加しましたが、行く先々で軍の高官からはまず枕詞のようにアフガニスタンでの自衛隊の貢献に対する感謝の言葉がありました。昨年もイラク戦争に対する協力に感謝の言葉があったとのことでした。今回は当初そのような言葉が少なく、不思議に感じていましたが、米軍自体が千人を越す犠牲者を出している状況では、感謝の言葉までの余裕がないのだろうと思っていました。しかし、意見交換が進むにつれ、日本との同盟関係は既にこのような枕詞は必要でないほど強固な段階にまで進んでいるのだということを実感しました。

今回の訪問で改めて米空軍とわが航空自衛隊との永い歴史を痛感するとともに諸先輩の築かれた相互の交流の深さを、またその恩恵を受ける有難さを身に沁みて感じました。今回の我々の訪問に際しご尽力頂いた方々にこの場をお借りしまして厚くお礼申し上げます。



Maj. Gen. Volcheff



Lt.Gen. & Mrs. Wood, Mrs. Surls

## 米空軍三沢基地タットル空軍曹長に感謝状

平成 16 年 7 月 1 日三沢基地下士官クラブにおいて米空軍三沢基地エアマン・リーダーシップ・スクール校長ウイリアム H. タットル空軍曹長の退官式が開催された。当協会三沢支部から小澤支部長、山本事務局長が参列した。タットル曹長は校長として航空自衛官の入校に尽力するとともに、第 35 戦闘航空団の日米友好クラブ副会長として三沢市内の各種ボランティアへ積極的に参加し、日米友好に多大な貢献をされました。彼の在職間の功績に対して当協会から感謝状を贈りました。退官式は日米両国歌吹奏、牧師説話、執行官による退官者紹介、勲章授与、大統領感謝状の紹介等、小澤支部長が日米エアフォース友好協会からの感謝状贈呈と続いた。その後、退官者へ国旗の授与、奥様へ基地司令と空軍参謀長の署名入り感謝状が贈られた。今回の退官式典で印象的だったのは、退官者タットル曹長へ米国旗を授与するにあたり、国旗を 2 等兵から上級軍曹、各階級 8 名の手を経てタットル軍曹に手渡されたが、その国旗授与隊員 8 名の中にエアーマン・リー

ダーシップ・スクール卒業生である航空自衛隊空士長が参加するとともに、英会話教室等の生徒である三沢市民が参列者として参加しており、彼の航空自衛隊および日本に対する功績を再確認したことである。最後にタットル曹長の退官挨拶があり、約 1 時間にわたる退官式が終了した。懇親会において、日米空軍協会表彰状の英語文が「すばらしい文面と内容である」と米軍関係者が関心していた。

(三沢支部長 小澤満昭記)



JAAGA Award

### 感 謝 状

アメリカ合衆国空軍第 35 戦闘航空団任務支援群  
空軍曹長 ウイリアム・H・タットル殿

日米エアフォース友好協会を代表し、緊要なる日米安全保障のパートナーシップへの貴官の卓越した貢献に対し我々の深甚なる経緯と感謝の意を伝えます。

貴官は 1997 年 7 月第 35 戦闘航空団エアマン・リーダーシップ・スクールに副校長として着任、その後 2001 年 7 月からは校長として 20 名にも及航空自衛隊空士長隊員を同学校に迎え入れ有意義かつ貴重なリーダーシップに係わる教育訓練の機会を与えました。同校を卒業した航空自衛隊の各隊員は職場代表として航空自衛隊英語弁論大会に出場、日米相互理解の気風を醸成したり、日米共同訓練の場で、直接日本側の調整役基幹要員として活躍するなど、日米共同運用の円滑化に大きな貢献を果たしてきました。

貴官は更に第 35 戦闘航空団のボランティア団体である日米友好クラブ副会長として同クラブが主催する航空自衛隊員や三沢市民を対象とした英会話教室で、永年無償の献身を継続されました。こうした期間の真摯な職務遂行への姿勢と日米友好に係わる献身は両国のとりわけ重要な軍・市民レベルでの相互の信頼と尊敬に基づく良好な関係の強化に大なる功績をもたらしました。

貴官が、アメリカ合衆国空軍を定年退官される輝かしい機会にここに敬意を込めて表彰状と記念品を贈呈いたします。

平成 16 年 7 月 1 日

日米エアフォース友好協会  
会長 村 木 鴻 二

### 三沢支部会員、米軍人の青森ねぶた参加を支援

夏の東北 3 大祭り、「青森ねぶた」に三沢基地の米軍人 24 名が参加した。従来より米軍三沢基地では「青森ねぶた」見学ツアーの催行はありましたが、今年度は三沢基地の北部航空方面隊司令部の准曹士先任と J A A G A 三沢支部の山本氏が青森市役所国際交流課を通じて青森国際交流観光協会と調整して青森「ねぶた」祭りに跳ね徒として参加しました。8 月 5 日、参加者は三沢基地正門前に集合、米空軍

の大型バスにより青森市役所に移動役所内において観光協会より借用した跳ね徒の衣装に着替え、18:00 から青森市役所「ねぶた」に参加して思いっきり飛び跳ねた。汗をかきかき「ラッセーラ・ラッセーラ」の掛け声で日本の夏祭りを大いに堪能しました。きっと日本勤務の良い思い出となったことと思います。(三沢支部山本会員記)



Nebuta Festival

## … 新入会員の紹介 …

### 1 正 会 員

氏 名 勤 務 先	〒	住所・電話番号（上段：自宅、下段：勤務先）	
山 本 隆 之	358-0001	入間市向陽台1-1-24-19-506	04-2963-4916
日動火災海上保険(株)	100-0004	千代田区大手町1-5-1	03-5223-2778
柴 田 雄 二	358-0024	入間市久保稲荷1-10-1-18-402	04-2965-9300
(財)自衛隊援護協会	162-0845	新宿区市谷本村町4-1	03-3267-9798
安 宅 耕 一	273-0044	船橋市行田2-3-2-201	047-430-3118
横 河 電 機 (株)	151-0051	渋谷区千駄ヶ谷5-23-13南新宿星野ビル8F	03-3225-5287
渡 部 泰	252-1126	綾瀬市綾西 4-11-8	0467-76-3838
(株) 産 建	243-0401	海老名市東柏ヶ谷2-24-14	046-232-7908
内 山 好 夫	175-0094	板橋区成増2-37-2-103	03-3939-2283
AIGエジソン生命保険(株)	104-6044	中央区晴海1-8-10 トリトンX	03-5547-9493
小 田 邦 博	275-0017	習志野市藤崎3-9-5	047-475-6407
伊 藤 忠 (株)	107-8077	港区北青山2-5-1	03-3497-2985

### 2 個人賛助会員

氏 名 勤 務 先	〒	住所・電話番号（上段：自宅、下段：勤務先）	
林 治 義	358-0053	入間市仏子 1035-15,8-506	04-2932-5688
(株)マイタウン東京	169-0072	新宿区大久保1-16-28	03-3232-1881
加 藤 幸 彦	168-0061	杉並区大宮2-5-8	03-3313-0787
NNHインターナショナル(株)	107-6103	港区赤坂5-2-20	03-5573-8842

### 3 法人賛助会員

法 人 名 代 表 者	〒	住所・電話番号	
(株)リアルビズ 鈴 木 一	101-0042	千代田区神田東松下町35 アキヤマビルディング2F	03-5207-6862

### 4 名誉会員

トーマス C. ワスコー中將 Commander, US Forces Japan and 5th Air Force

## 会 員 募 集

J A A G A は、創立 8 周年を迎え、更なる前進を目指して個人会員の会勢拡大に努めております。会員の皆様の勧誘及び推薦、情報提供に関するご協力、ご支援を是非とも宜しくお願い致します。なお、個人会員担当窓口は、次のとおりです。推薦若しくは情報提供を頂いた方には直接会員担当の係から連絡させていただきます。

#### 【入会資格】

正 会 員 : 航空自衛隊のOB

個人賛助会員 : 航空自衛隊のOB以外の方で、正会員 3 名の推薦が必要です。

#### 【連絡先】

〒105-0004 東京都港区新橋 5-25-1-3

日米エアフォース友好協会

尾 崎 利 夫 (東京航空計器(株)) 03-3489-1120

村 岡 亮 道 (三菱重工(株)) 03-3212-3111

宇都宮 靖 (横浜ゴム(株)) 03-5400-4721

新 井 洋 一 (新東亜交易(株)) 03-3286-0339

## ワンポイントQ&A

### Q JAAGAとは？

**A** JAAGAは、航空自衛隊と米空軍との相互理解と友好親善の増進に資することを目的とし、現役の皆さんが仕事をやりやすい環境作りに寄与しようという航空自衛隊OB主体の組織です。

### Q 協会の運営は？

**A** JAAGAは、ボランティアに徹し見返りを求めないこと、及び努めて現役の皆さんに負担を掛けないことを方針として運営しております。多くの皆様の期待に応えるべく、さまざまなアイデアを取り入れ、活動の幅を広げ、種々の事業を展開してまいります。

### Q 私も参加できますか？

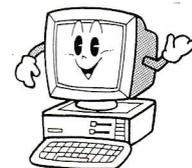
**A** JAAGAは、その活動をより活発にするため、個人会員の会勢拡充に努めております。航空自衛隊のOBの方は、どなたも正会員として入会できます。また航空自衛隊OB以外の方でも、個人賛助会員として入会の道があります。

## ☆ 原稿募集 ☆

皆様からのフリーな投稿や、JAAGAの活動に対するご意見やご要望を頂戴し

### 皆様と共に歩むJAAGA

として更なる発展を期していきたいと思えます  
皆様の貴重なご意見や各種投稿をお待ちしています



### 投稿受付

越智 通隆 Tel 03-3437-8972 (三井物産エアロスペース)  
Fax 03-3437-8755